

西方浄土変の研究

大西磨希子 著

(国立情報学研究所 プロジェクト研究員)

A5判上製函入 本文三六〇頁

定価一〇、五〇〇円(本体一〇、〇〇〇円)

ISBN987-4-8055-0538-0 C3071

本書の構成

従来の西方浄土変研究は、西方浄土変における善導の役割を重視する点や、『観無量寿経』の影響の有無を見ようとする点では、おしなべて一致しており、その意味で固定化した観がある。しかしながら、西方浄土変の問題がすべて解決したわけではない。

本書では、まず第一部において唐代西方浄土変における四つの問題点を、各章の課題として設定する。第一章では、松本榮一『燉煌画の研究』の西方浄土変に関する説を根本的に問い直す。第二章では、唐代に西方浄土変が大きく変貌した背景を探る。第三章では、盛唐以降の西方浄土変の様相を探る試みとして、外縁部にあらわされる十六観図に注目し、その変遷をたどる。第四章では、当麻曼茶羅に対する従来の図様解釈を再検討し、唐代の西方浄土変として眺めたときに、どのように解釈できるかを考える。

第二部では、日本における展開を取り上げる。日本における西方浄土変というと、当麻曼茶羅などの作例が想定されるのは当然であるが、一見無関係に思われる作例のなかにも、西方浄土変の展開や変容の跡を見出すことができる。そこで鎌倉時代初期の作例から絵画と彫刻を一例ずつ取り上げ、第一章では高野山蓮華三昧院の阿弥陀三尊像、第二章では浄土寺の阿弥陀三尊像について考察する。そのうち前者については西方浄土変、後者については『観経』の十六観との関連から論じる。

第三部の資料では、莫高窟第四三一窟と綴織当麻曼茶羅の十六観図の筆者による描き起こし図などを載せる。



お取扱いは

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

TEL03-3561-5993 FAX03-3561-5834

西方極樂浄土を描く「西方浄土変」の敦煌莫高窟に残る作例を中心に、従来の研究を根本から問い直し、中国浄土教の展開のなかでどのように西方浄土変が唐代に最高潮を迎えたのかを、歴史的・思想的に明らかにする。

目 次

序 論

第一節 西方浄土変研究史／第二節 本研究の課題と概要

第一部 唐代の西方浄土変

第一章 初唐期の西方浄土変と『観無量寿経』

序／第一節 松本榮一説と従来の研究／第二節 『観経』に特有のモチーフ／第三節 西方浄土変に描かれた『観経』モチーフ／結—〈阿弥陀浄土変相〉〈観経変相〉という名称について—

第二章 初唐期の西方浄土変に及ぼせる道綽の影響

序／第一節 『観経』の受容における高揚期／第二節 初唐期における西方浄土変の流行／第三節 初唐期の西方浄土変と道綽の浄土教／結

第三章 敦煌における十六観図の研究

序／第一節 十六観図に関する研究史／第二節 敦煌画十六観図の作例と分類／第三節 敦煌における十六観図の展開／結

第四章 綴織当麻曼荼羅の研究

序／第一節 当麻曼荼羅の図像に関する研究史／第二節 図像解釈の再検討／第三節 制作地と制作年代について／第四節 中国浄土教美術における当麻曼荼羅の位置／結

第二部 日本における展開

第一章 蓮華三昧院阿弥陀三尊像の研究—主題の検討を中心に—

序／第一節 従来の研究／第二節 智光曼荼羅C本との図像的關係／第三節 現前と雲のモチーフ／第四節 明遍の思想と蓮華三昧院本の主題／結

第二章 浄土寺阿弥陀三尊像の研究—元照の浄土思想の影響—

序／第一節 浄土寺阿弥陀三尊像の形制と宋画阿弥陀三尊像／第二節 十六観変相図と元照の浄土思想／第三節 十六観変相図にみる元照の浄土思想の特色／第四節 浄土寺像の特徴の思想的背景／結

第三部 資料篇

I 莫高窟第四三一窟十六観図（初観～第十三観 描き起こし図）／
II 敦煌画十六観図（記述／描き起こし図・写真図版）／III 綴織当麻曼荼羅十六観図（初観～第十三観 描き起こし図）

【著者略歴】

大西磨希子（おおにし・まきこ）

1970 年 兵庫県に生まれる

1993 年 早稲田大学第一文学部美術史学専修卒業

2002 年 早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻博士後期課程単位取得退学

2005 年 博士（文学）（早稲田大学）

現 在 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系プロジェクト研究員

